

薬の話

抗アレルギー薬について



花粉症が増える季節になり、アレルギーの薬を服用する方も多いのではないのでしょうか。現在、抗アレルギー薬には様々な種類があり、医療用医薬品のみでなく、市販のOTC医薬品でも複数の商品が販売されています。

アレルギーの薬と聞くと、眠気が心配と思われる方も多いと思います。薬の種類によって、特に古くに開発された抗アレルギー薬では眠気やのどの渇きなどの副作用が強く現れます。また、本人に眠気や倦怠感などの自覚症状が無くても集中力・判断力・作業能率の低下が起こることも知られています。しかし、近年ではそういった作用が起こりにくい薬が増えており、仕事や車の運転等を心配される場合にも使用できる薬があります。市販薬でも医療用と同成分・同等量が含有された商品も多く、眠気や集中力低下を起しにくい特性の薬も見受けられます。薬を希望される場合には、ご自身の生活スタイル等も考慮して頂くとより良い薬剤選択に繋がると思います。
〈濱田 陽子 川出 摩由璃〉

ご存知ですか？

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師



マンモグラフィ検査は、しこりの形や1mmにも満たない石灰化と呼ばれる粒状の影を見分ける繊細な写真で、撮影装置の精度管理が適切に行われている必要があります。

また、痛い印象の強い検査ですが、撮影の仕方でもかなり差が出るように思います。

当院では、『日本乳がん検診精度管理中央機構』により認定を受けた認定技師が3名（女性2、男性1）在籍し、装置の維持管理及び撮影をしています。少しでも検査への抵抗感を減らすため、可能な限り女性技師で対応しておりますので、お気軽に受診して下さい。
〈滝岡 秀紀〉

ご意見箱

ご意見箱は、正面玄関、南玄関廊下西、及び各病棟に設置してあります。お気づきの点は、どんな些細なことでも結構です。なお、連絡先を記入された方には、必ずご意見に対するご回答をさせていただきます。

◆先週土曜日の午後8時頃に救急外来にきました。痛くて苦しくて。私の住んでいる羽島市に救急外来がある事に感謝でした。入院となり病院は、先生、看護師さん達が24時間休まず働いていることにまた感謝でした。

若い看護師さん、若い清掃士さんを見た時、若い方が働く職場に嬉しさを感じました。羽島市民病院は羽島に住む地域住民の大切な場所です。病院を支えてくださる方々の環境、待遇を大切に、羽島市民が誇れる病院にしてください。病院にかかるひとりの患者としてマナーある市民に努めたい。

◆私は新年早々、転倒してヒザを骨折して病棟に入院中です。1日の早朝2時か3時頃に足の痛みと38.7度の熱で苦しんで助けを求めたところ主人が救急車を呼んで来て羽島市民病院へ連れて来てもらいました。対応して下さった担当の先生、CT、レントゲンを撮って下さった技師さん、看護師さんには早朝ですが親切に対応して下さりまして入院となりました。病棟は何度も知り合いのお見舞いに来たことがありその度にデザインが素敵だと思いついて入院してみたいなどひそかに思っていました。この度、足から入って細菌による熱と左ヒザの骨折で病棟へ入院させていただくことになり看護師さんの明るい対応に私も明るくされて治療をいたしております。建て方の気付かされては利点、非常時にペランダに出口方に。部屋が明るい。私は栄養士で少しは

料理のことを理解しているつもりです。料理がとても美味しいです。

◆本日、孫の血液検査の為に来院する。採血のために番号札をくばっているが、知り合いの看護師さんがいるのを確認して番号がきていないのに内緒で採血を先にしてもらってみえました。みなさんが待ってみえるのだから順番にやってほしいと思いました。外来の看護師さん、Drの対応はよくうれしく思っております。

◆一部の看護師の対応でご不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。8時から8時30分の間は、2名の外来看護師が当番制で採血業務を行っております。担当者および関連部門にはルールを守るよう指導し、対応を再確認いたしました。ご指摘ありがとうございます。

◆編集後記◆

新年度になりました。新たな場所でスタートされる方も見えますが、心身ともに大切に過ごして下さい。今年度も羽島市民病院をよろしく願い致します。
〈M〉

そよかぜ

第 60 号
平成29年4月発行
羽島市民病院
ふれあいプロジェクト委員会
羽島市新生町3-246
TEL058-393-0111

羽島市民病院の理念 「心のかよう医療を通じて地域に貢献します」

基本方針

1. 医療連携を進め地域の皆様の健康な生活を支援します
2. 多職種協働により安全で質の高い医療を行います
3. 地域における救急医療環境の向上に努めます
4. 効率的な運営により健全な経営を目指します
5. 明るく働きがいのある職場環境づくりに努めます
6. 教育研修の充実を図り心豊かな医療人の育成に努めます

平成29年度スタートにあたって

羽島市民病院 院長 大角 幸男



今年度は、2025年に向けた地域医療構想をふまえて、総務省主導のもと、当院でも新公立病院改革プランを策定致しました。これは現在の厳しい経営状況の中で安定した経営を維持するための改革プランです。その様な状況の中で職員からは経営改善の為の500を上回る提案を頂きました。これをふまえ、今年度を改革の第一歩の年として職員一丸となって対応してまいります。この地区にとって、唯一の公立病院である羽島市民病院の今後は、救急医療を含めた急性期医療と、地域に密着した市民の皆さんが健康に暮らせる地域医療を併せて行う方向で、引き続き高度な医療を提供してまいります。

TQM活動発表会

TQM委員会 委員長 酒井 勉



平成29年2月17日当院講堂で第12回TQM活動発表会がありました。

TQMとは Total Quality Management の略で医療の現場では病院内のさまざまな問題を合理的な手法で抽出、改善し、患者様により良い医療を提供することと職員を取り巻く様々な問題を改善していくことを目的とし活動しています。この活動には第1回より人材育成研究所所長の立川先生にご指導

いただいておりますが、今回は病院の経営改善という大きなテーマに12チームに参加してもらいました。直接的あるいは間接的に経営改善に繋がるさまざまな問題点を集約し、一つのテーマとして、それに関わる他部署とコラボしながら改善を目指す手法を検討し1年間活動してもらいました。その活動の成果を含めて各チームに発表してもらいました。この活動の当初より楽しく活動するというのがモットーであり、その発表会は例年通り大変楽しいものとなりました。唯楽しいだけではなく各チームのテーマの選



択、問題解決への手法、その成果はどのチームを見ても大変充実したものでした。各審査員の採点の結果はリハビリテーション科のファインディング・エコ ～エコで賢い節約・修理・再利用でガッチリ稼ごう！！～が1位に選ばれました。着ぐるみを使った寸劇による発表が楽しく、そのテーマ、問題解決への手法、成果ともに大変優れたものでした。



それぞれチームが行った活動が継続され、他部署へも水平展開され、病院の医療の質の改善に繋がって欲しいと期待しています。

羽島市民病院 市民公開セミナー

市民病院では、地域の保健・医療・福祉へ貢献することを目的として、毎月第2水曜日に市民向け公開セミナーを開催しています。病院の各部門が分担して医療等における最新情報を市民の皆様にお知らせします。ぜひご参加ください。



	日 程	担当診療科等	講演テーマ
第101回	平成29年 4月12日	泌尿器科 部長 後藤 高広	「たかが頻尿、されど頻尿」
第102回	平成29年 5月10日	管理栄養士 鈴木美佐子	「ロコモ世代に向けたバランスのよい食事」
第103回	平成29年 6月14日	腎臓内科 部長 杉山 昌史	未 定

日 時：毎月第2水曜日 14:00～15:30(原則)
会 場：羽島市民病院 診療棟3階 講義室

参加無料

予約不要

シニア病氣

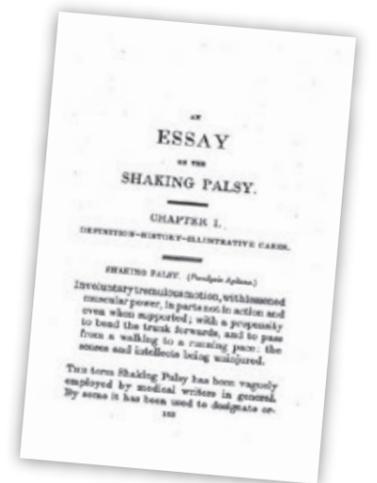
神経内科の病氣について ～パーキンソン病～



神経内科部長 村瀬 全彦

今年1817年に英国の James Parkinson が世界で初めて論文発表(図)してからちょうど200年となる節目の年ですので、今回はそのパーキンソン病について説明します。

この病氣は脳変性疾患(脳の様々な部位の神経細胞が徐々に変性脱落していく原因不明の疾患群)の一つですが、この疾患群の中では現時点で唯一薬物療法にて症状を改善できる病氣です。その理由はこの病氣では発病初期には中脳の黒質と呼ばれる部位にあるドパミンを神経伝達物質とする神経細胞のみに局限した変性脱落が起こるため、脳内ドパミンを増やす作用のある薬物を投与することにより症状を改善させることができるためです。



1817年James Parkinsonの論文表紙

- 1) 疫学：有病率は人口10万人に対して100～150人、全国で13～15万人、岐阜県で約2000人の患者数と推計され、50歳～60歳台で発症することが多いですが、若年発症や最近では80歳以降の高齢発症も増えてきています。
- 2) 発症様式・経過：脳変性疾患に共通した緩徐進行性の経過をたどります。進行して一定の重症度以上になると厚労省指定難病認定が受けられます。急な発症や進行をする場合には他の病氣が疑われます。
- 3) 症状：振戦(主に四肢が安静時に震える)、固縮(他動的な関節運動が固くなる)、無動(動作緩慢で顔面を含め動きが少なく、前屈姿勢、小股歩行になる)および姿勢反射障害(バランスが悪く転倒しやすくなる)が四大症状ですが便秘、排尿障害、立ちくらみ、発汗障害や流涎等の自律神経症状、さらには抑うつ状態、幻覚・妄想や認知障害等の精神症状も合併することがあります。
- 4) 診断：パーキンソン病では、CT、MRIなどの脳画像診断では異常所見がみられないことが重要です。パーキンソン病と同様の症状を示す疾患をパーキンソン症候群と総称しますが、脳血管障害性、向精神薬等の副作用(薬剤性)や表のような他の脳変性疾患との鑑別診断が必要となります。Lドーパ等の抗パーキンソン病剤が有効であるのはパーキンソン病のみですので、その投与が鑑別に有用です。

5) その他：多くのパーキンソン病患者さんにおいては現在種々の薬剤による長期間に亘る治療が行われていますが、今後も新薬の開発やiPS細胞の脳移植など新しい治療法の確立が期待されています。

表 パーキンソン症候群の鑑別

1. 特発性パーキンソン症候群(原因不明)：パーキンソン病
2. 症候性パーキンソン症候群
1) 脳血管障害性パーキンソン症候群
2) 薬剤性パーキンソン症候群
3) 脳炎後パーキンソン症候群
4) 中毒性パーキンソン症候群(MPTP、マンガ、一酸化炭素等)
5) 正常圧水頭症(NPH)
6) その他(頭部外傷後遺症・脳腫瘍など)
3. パーキンソン病以外の脳変性疾患(原因不明)
1) 多系統萎縮症(MSA)(線条体黒質変性症、オリブ・橋・小脳萎縮症 Shy-Drager症候群)
2) (びまん性)レヴィー小体病(DLB)
3) 進行性核上性麻痺(PSP)
4) 大脳皮質基底核変性症(CBD)
5) その他